

事務事業名	交付金活用道路修繕事業		所属部	建設部	所属課	建設工務課	
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉		所属G	公共土木G		
	施策名	〈12〉道路の整備		担当者名	石原裕太		
	目的対象	市民	意図	市内及び市外へ安全で便利に移動できる。			
	基本事業	〈035〉道路の維持管理		電話番号	0854-40-1063 (内線) 2473		
目的対象	道路利用者	意図	安全に移動できる。			予 算 科 目	会計 款 大事業 大事業 0:140:0:2 道路施設管理事業 項 目 中事業 中事業 1:0:1:0:0:9 交付金活用道路修繕事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①生活道路の利用者 ②修繕が必要な生活道路等	①市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ②修繕(補修)等を実施する。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(H26 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	・道路ストック点検結果に基づき、道路維持管理計画を見直し、計画的な修繕を実施する。 ・平成28年度に実施した落石・法面緊急点検結果に基づき、緊急性の高い箇所から対策を実施する。 ・路面性状調査を基に舗装修繕を実施する。 ・小規模付属物台帳を整備し効率的な維持管理を行う。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R3年度実績(R3年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
・路面性状調査・小規模付属物台帳作成業務 ・市道梅木曾木線法面対策工事(その2)	・H26年度に道路ストック点検を行った。道路法一部改正に伴い、概ね10年に1度点検をしなければならない為、R元年度～R6年度において2巡目の点検を行う。 ・防災・安全社会資本整備交付金を活用することで、修繕予算を確保し、計画的な修繕の早期対応を目指している。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(計画)
ア 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	63.3	65.2	63.9	63.9
イ 生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	72.3	65.7	68.4	68.4
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)	② コストの推移	単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)	
【委託料】1業務 9,486千円 【法面対策工事】1路線 25,658千円 【需用費他】 282千円 【地方債】合併特例債	財源内訳	国庫支出金	千円	61,097	37,660	20,032	16,530
		県支出金	千円				
		地方債	千円	41,100	23,800	10,700	6,800
		その他	千円				
		一般財源	千円	5,970	5,821	4,694	5,970
	事業費計	千円	108,167	67,281	35,426	29,300	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	・路面性状調査及び小規模付属物調査の結果を反映し、舗装及び道路附属物の修繕計画を作成した。 ・継続路線である市道梅木曾木線の法面対策が図られ、道路利用者の安全が確保された。
② 事業実施するうえでの課題	・道路施設の老朽化が進み、補修や更新、安全対策が必要な箇所が増加している中、計画的かつ効率的な道路の維持管理を確保するため、メンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録)を構築し、ライフサイクルコストの縮減を図る必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・道路維持管理計画(H24策定)に基づき、毎年ローリングを行い、一定規模以上の維持修繕は本事業により修繕を図っている。 ・メンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録)を構築し、ライフサイクルコストの縮減を図るため、次期道路維持管理計画及び各道路施設の個別施設計画を策定し、各道路施設の修繕優先度や実施方針を定め、計画的かつ効率的な修繕を実施していく。